

祝

念願の日本遺産 広域認定

町に所在する文化財群が念願の日本遺産に認定されました。令和2年6月19日、文化庁は、平成27年度に認定されていた日本遺産「古代日本の交流拠点」について、その範囲の拡充を公表しました。これにより、構成文化財はこれまでの19件から30件に増え、構成自治体も太宰府市単独から、福岡県、筑紫野市、大野城市、春日市、那珂川市、宇美町、佐賀県基山町を含めた8団体へと拡がり、福岡県が代表自治体となつたものです。

大野城市を含めた5市2町に所在する文化財群が念願の日本遺産に認定されました。令和2年6月19日、文化庁は、平成27年度に認定されていた日本遺産「古代日本の交流拠点」について、その範囲の拡充を公表しました。これにより、構成文化財はこれまでの19件から30件に増え、構成自治体も太宰府市単独から、福岡県、筑紫野市、大野城市、春日市、那珂川市、宇美町、佐賀県基山町を含めた8団体へと拡がり、福岡県が代表自治体となつたものです。



善一田古墳群（大野城市教育委員会提供）



「西の都」の想定範囲

※Google Earthより転載・使用

社会全体として、新型コロナウイルス感染の第2波、第3波が懸念される中、外の方はもちろんのこと、国内の観光客誘致もこれまでのようにはいかない状況が続くことが予想されます。しかし、このような時こそ、私たちには現状を真摯にとらえ、魅力ある地域づくりに努め、時勢を見ながら、徐々に来訪者を迎えていく準備をしなくてはなりません。そのためには、福岡県と関係7市町が一体となり、地域の人々と共に様々な施策

を展開していくことに加え、拡充された「西の都」を支える地域の人々が、今まで以上に故郷を誇りに感じ、今回拡充された日本遺産を広域ブランドとして発展させていく視点が大切ではないかと考えています。

乙金地区にある善一田古墳群は6世紀から7世紀にかけて築かれた古墳群ですが、一帯の古墳群からは新羅土器や「奈」の字をヘラ書きした須恵器が出土するなど、海外からもたらされた先進文化を見ることがでできます。善一田古墳群は、大宰府が置かれ、国際交流都市として発展した「西の都」が、前代から上に成り立つていてことを示しています。

そんな善一田古墳群から見下ろす市街地の中に、御笠の森が静かに佇んでいます。万葉集筑紫歌壇の一人、大伴百代が詠んだ恋の歌「念はぬを思ふといはば大野なる 御笠の森の神し知らさむ」にも登場します。水城の東門から福岡平野へのびる官道も近くを通り、都から大宰府へとやってきた大伴百代も道すがら森を眺めていたのでしょうか。

大宰府政府からまつすぐ南に延びる朱雀大路を南進すると、現在の二日市温泉に至ります。かかると、福岡・佐賀県境にある基肄



牛頸須恵器窯跡出土「和銅六年」銘ヘラ書き須恵器

城跡が見えます。大野城と同じ六六五年に築かれた古代の山城で、「西の都」の南の護りを担う位置にあります。奈良時代、妻を亡くした大伴旅人が、弔問に訪れた官人らと基肄城に登り哀歌を詠むなど、緊迫した雰囲気は薄れ、交流の場ともなっています。

『日本書紀』にも登場する「裂田溝（さくたのうなで）」があります。那珂川から取水する人工用水路で、台地を貫く約五・五キロメートルに及ぶ長大な溝は、広大な穀倉地帯を潤し、「西の都」の発展を支え続けました。

日本遺産（Japan Heritage）は、文化庁が地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーです。今回追加された構成文化財11件には、大野城市的「牛頸須恵器窯跡（うしくびすえきかまあと）」「御笠の森（みかさのもり）」をはじめ、筑紫野市の「次田温泉（すいたのゆ）」、「善一田（せんいちだ）古墳群」をはじめ、筑紫野市の「次田温泉（すいたのゆ）」、「善一田（せんいちだ）古墳群」なども含まれ、特に「次田温泉」や「善一田（せんいちだ）古墳群」なども含まれ、特にマスメディアの注目を集めました。

この地には、六六三年の白村江の戦いの後に、水城や大野城基肄城など、百濟の宮都を模した要塞が築かれました。遣唐使として東アジアの先進都市、唐長安城をみた粟田真人が筑紫に赴任し、それら前代の城塞を巧みに取り込み「西の都」を築きました。中心に、約2キロメートル四方の碁盤目の街区を設けた本格的な都城で、大宰府政府などの役所や、官人志望者の養成機関、迎賓館、寺院などが建ち並び、四方へ広がる官道を外交・交易も行わされました。外国使節（賓客）は博多湾岸の筑紫館（鴻臚館）から、官道を大宰府へ進み、水城の西門をくぐり、さらに進んで推定羅城門から朱雀大路を北上し、大路沿いの客館に入りました。そして威儀を整え、大宰府政府へ向かいました。政府では、樂が流れるなか儀礼いました。

「西の都」では、国家による外交・交易も行わされました。外国使節（賓客）は博多湾岸の筑紫館（鴻臚館）から、官道を大宰府へ進み、水城の西門をくぐり、さらに進んで推定羅城門から朱雀大路を北上し、大路沿いの客館に入りました。そして威儀を整え、大宰府政府へ向かいました。政府では、樂が流れるなか儀礼いました。

また、觀世音寺には、都や大臣が詠まれました。また、万葉歌人たちは、大野城や基肄城、次田温泉（二日市温泉）をはじめ筑紫の風景に心を寄せて歌を詠みました。

陸文化の影響を受けた彫像や、外国使節をもてなす舞楽の面、菅原道真が漢詩に詠んだ梵鐘など多くの文物が集積しました。

このように、「西の都」は東アジアの先進文化と日本の文化とが行き交う場所でした。



大宰府政厅跡（九州歴史資料館提供）

日本遺産（Japan Heritage）

【認定されたストーリーの概要】

一三〇〇年前、日本の西、九州には「大君の遠の朝廷」である大宰府が置かれ、「天下之一都會」と呼ばれた都があり、日本の宮都や海外からの先進文化で彩られていました。

この地には、六六三年の白村江の戦いの後に、水城や大野城基肄城など、百濟の宮都を模した要塞が築かれました。遣唐使として東アジアの先進都市、唐長安城をみた粟田真人が筑紫に赴任し、それら前代の城塞を巧みに取り込み「西の都」を築きました。

この地には、六六三年の白村江の戦いの後に、水城や大野城基肄城など、百濟の宮都を模した要塞が築かれました。遣唐使として東アジアの先進都市、唐長安城をみた粟田真人が筑紫に赴任し、それら前代の城塞を巧みに取り込み「西の都」を築きました。